

1. はじめに

我孫子市民会館は、ボーリング場だった建物を改築し、昭和 54（1979）年に開館しました。市民会館には、1000 席のホール、図書館、会議室等があり、多くの市民が文化活動の場や芸術文化に触れる場として利用していました。

平成 19（2007）年 3 月末に、耐震性の問題から閉館した後は、同館の利用者・利用団体の多くは、湖北地区公民館（250 席）やけやきプラザふれあいホール（551 席/県施設）を活動・発表の場としています。また、収容人員や音響・舞台の関係で、柏市民文化会館（1338 席）や印西市文化ホール（531 席）を利用する文化団体や学校もあります。そのため、市民からは、市民会館に代わる施設の整備を求める声が多く寄せられています。

こうした現状を踏まえ、市は、市民会館の機能を踏襲した施設の整備を前提に、市民等も交えて研究・検討を行いました。その後、平成 23（2011）年 3 月に東日本大震災が発生したことや、人口減少・少子高齢化の局面に入ったことなど、市を取り巻く環境は変化してきました。

そのため、市では、にぎわいづくりや交流人口の拡大につながるような取組みを始め、文化施設についても、「交流促進」機能を付加した複合施設「文化交流拠点施設」として改めて調査・研究し、建設構想（案）をとりまとめることとしました。

建設構想（案）とりまとめの基礎資料とするため、平成 24（2012）年 8 月に「文化施設整備庁内検討委員会」、平成 25（2013）年 11 月に「文化交流拠点施設整備専門家会議」を設置し、市民団体へのアンケートや建設候補地の評価等を行いました。その結果は、平成 26（2014）年 10 月に『文化交流拠点施設整備調査研究業務報告書』としてとりまとめました。報告書では、建設候補地について、「高野山新田地区」が最も適していると報告されています。

その後、国からの要請に基づき、約 2 年をかけて、平成 28（2016）年 6 月に『我孫子市公共施設等総合管理計画』を策定しました。この計画では、市の将来の人口予測や財政状況を踏まえ、市全体の公共施設について、今後のあり方を整理しました。

さらに、建設候補地として最も適しているとされた「高野山新田地区」について、平成 29（2017）年 10 月に『高野山新田地区 土地利用構想』を策定し、同地区の土地利用の考え方をまとめました。

この建設構想（案）では、これまでの研究・検討や平成 26（2014）年度の調査研究報告書の内容、それ以降の新たな視点、市民から寄せられた意見等を踏まえて、整備するとした場合の施設の概要を 3 つのパターンに整理しました。併せて、

概算の整備費用やライフサイクルコスト（LCC）を試算するとともに、市の人口展望や財政状況、今後実施を予定している大規模事業など、今後の検討で踏まえるべき課題についても示しています。

今後は、本案をもとに、さらに意見を聴いていくものとしします。